

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：34407

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520329

研究課題名(和文)14・15世紀の宗教文学と一般信徒の信仰：写本文献の伝播と変容に基づく研究

研究課題名(英文)Religious Literature and Lay Devotional Culture in Fourteenth- and Fifteenth-Century England: Evidence in Manuscripts

研究代表者

田口 まゆみ (Taguchi, Mayumi)

大阪産業大学・人間環境学部・教授

研究者番号：30216832

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は後期中世に普及した「キリストの生涯と受難の黙想」という信仰の形が文化の進化・発展にもたらした影響を写本文献を精査することを通して考察した。その成果は国内および国際学会での研究発表、当該分野の他の研究者との共著、学術雑誌への論文投稿によって随時発信してきたが、最終的成果はピープス図書館版『キリストの受難の黙想』の校訂本である。校訂本準備の作業は、本文決定、注解、語彙録作成および序論の執筆から成る。その全てが3年間の研究期間のみならず、研究代表者及び研究分担者の先行する研究期間の関連研究における研究を集約しているといえることができる。

研究成果の概要(英文)：This project aimed at investigating materially and linguistically as well as contextually into cultural influences and roles of the form of devotion employing imagination focused upon the lives and the passion of Jesus and Mary, which is widely considered to have contributed to the development of the use of the faculty of emotions, and thence to the nurture of "self", bridging the Middle Ages to the Early Modern period. Our research was particularly interested in Cambridge, Magdalene College, MS Pepys 2125 and a Middle English translation of the Passion section of the Pseudo-Bonaventuran *Meditationes Vitae Christi* contained in this manuscript. The MVC is undoubtedly one of the most important and influential texts when considering the development of lay devotion in the fourteenth and fifteenth centuries, but is still widely neglected. We therefore aimed at preparing an edition of the English version, which will soon be published in the Middle English Texts series (Heidelberg).

研究分野：中世英文学

キーワード：英文学 英語史 中世 写本 翻訳 キリスト教

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は、研究代表者の基盤研究(C)「『キリストの生涯の黙想』が15世紀の大衆思想に与えた影響について」(2009-2011)を発展させるものとしてスタートした。研究方法としては、近年の写本研究の活発化を受け、写本資料の実証的な研究方法の強化を目指した。研究対象は、これまでの研究から継続的に、中世末期の西洋全域において文化・芸術の発展に多大な影響を与えた偽ボナヴェンチュラ作『キリストの生涯の黙想』とし、やはり研究代表者がそれまで研究対象としてきた写本(Cambridge, Magdalene College, MS Pepys 2125)に収録されている受難部分の英語訳『キリストの受難の黙想』を特化して、ラテン語原典および他の英語訳との比較を写本資料も用いて進めることにした。

14・15世紀の宗教文献研究は当時の西洋全体の文化を次の時代への連続線上にとらえるために大変重要であるにも関わらず、英文学研究領域においてもラ・仏文学研究においても未開拓の部分が多く、大きな可能性を秘めていた。写本文献の実証的研究もまた、その重要性についての主張がやっと顧みられるようになったばかりという発展段階にあり、今後の研究を牽引してゆく可能性を持っていた。

(2) 写本資料に立脚した実証的な研究には収録文献の言語的分析も重要であるため、中英語研究において業績を積み上げてきた研究分担者と研究組織を結成して語学的視座を強化した。この研究体制で Middle English Texts (Heidelberg: Universitätsverlag) シリーズに出版準備申請を行い、快諾を得たことが科研申請の大きなきっかけとなった。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、大きく分けて二つの目的を持っていた。ひとつは、写本資料を通してその背景にある文化の特質やその伝播・変容について考察し、読みとるとのことである。つまりどのような文献が好んで書写され、どのように使用されたかについて、写本資料を「材料」(material)としてその形態を含む性質を具体的に吟味することである。(2) 二つ目は、ラテン語で流布した宗教文献がどのような形で英語に移し替えられ、用いられたかということ、文学と語学の両面から精査・分析することである。この作業を通じて、当時の英国社会におけるキリスト教の受容の特徴について考察すると同時に、伴って生じた言語接触がどのような影響を言語そのものに及ぼしたかについても考察を行うこととした。

この二つの目的を達成するための具体的な最終目標として、Pepys版『キリストの受難の黙想』の校訂本の出版準備(本文決定、注解、語彙録作成、序論の執筆)の完了ということ据えた。

## 3. 研究の方法

上記2.(1)(2)の目的を遂行するために研究代表者は上記1で述べたように具体的な研究対象を特定し(ケンブリッジ大学モードリンコレッジ、ピープス図書館所蔵の2125写本およびここに収録された偽ボナヴェンチュラ作『キリストの生涯の黙想』の受難部分の英語訳『キリストの受難の黙想』)、語学研究者と研究組織を立ち上げた。

(1)の写本資料に基づく研究は、中心とする写本(Cambridge, Magdalene College, MS Pepys 2125)を精査すること、および中心的研究対象文献『キリストの生涯の黙想』のラテン語原典ととその英語訳を収録する多数の写本を研究するということを意味した。

Cambridge, Magdalene College, MS Pepys 2125は、50編を超える大小の宗教文献を編纂した写本である。その中には同じテキストを2回以上異なる材源から書写したケースや、いくつかのテキストでグループを作っているケース、転写元の写本が判明しているもの、よく似たヴァージョンが他写本で見ついているものなどがあるがいずれも流布版とは異なる特徴を呈しており、多種多様、複雑な研究素材を内包していた。この写本を精査するという事は、それら多種多様の文献それぞれの複雑な関係を流布版、他写本と比較しつつ、既存の記録(図書館カタログなど)の正誤を確認しつつ、ある時は原典を探しながら解明してゆくということの意味していた。方法的には、各文献の既存の校訂版のみならず、写本文献、各カタログの内容との比較、また原典やもと写本発見のための写本調査といった作業を丁寧に行っていた。

『キリストの生涯の黙想』のラテン語原典は100以上の写本に現存し、イギリスおよびヨーロッパ各地の図書館に所蔵されている。それら全ての所在を確認し、直接あるいはデジタル版を入手して閲覧した。英語訳は複数の異なる訳が作られたが、そのうちPepys版は他の写本に見つからない。ニコラス・ラヴによる全訳は60以上の写本に現存する。受難部分のみを扱った Middle English *Meditationes de Passione Christi* と呼ばれる訳は9本の写本に現存する。これらの写本のほとんどは直接図書館で閲覧し、必要な場合はデジタル画像も入手して精査した。

(2) 偽ボナヴェンチュラ作『キリストの生涯の黙想』のラテン語原典とPepys版『キリストの受難の黙想』を比較し、英語翻訳の特色を抽出して検証することにより当時の英国社会におけるキリスト教の受容の特徴について考察するとともに、翻訳という作業および翻訳文学が流布することによって生じる言語接触が後期中英語の形成・発展に与えた影響について考察するために、研究代表者は、まずラテン語原典テキストとPepys版テキスト、さらに他の英語訳とをパラレルに配置した資料を作成した。

また、ラテン語版にもいくつかのヴァージョンがあるため、100 余りの特徴的な異形 (variants) について、それらのラテン語がどのように英語に訳されているかを詳細に比較・検証した。

一方研究分担者は、後期中英語の一般的な特徴と照らし合わせるとともに、多数の中英語テキストと比較し、Pepys 版テキストに特徴的な言語の実態について考察した。

これらの研究作業は、対象テキスト (Pepys 版『キリストの受難の黙想』) の校訂版を作成するために行う本文決定、注釈付け、語彙録作成、序論の執筆という作業と関連させて行うことができた。

#### 4. 研究成果

上記 2 の目的は、上記 3 の研究方法を入念に行うことによって順調に達成されたと言える。その成果は、内外での学会における口頭発表、そのプロシーディングズへの参加、学術雑誌への投稿という形で随時発信してきたが、特に学会プロシーディングズで当該分野における国際的権威の面々と肩を並べることができたことは、研究の方法と成果が国際的に評価されたことを意味すると言ってよいと考える。さらに、最終的成果として刊行する Pepys 版『キリストの受難の黙想』の校訂本の準備も順調に進み、研究期間を終えた今、最終段階を迎えており、近い将来、Middle English Texts (Heidelberg) から上梓できる見込みが立ったことは喜ばしいことであると考え。本研究の成果は、文学研究、語学研究の両面にわたって、さまざまな応用の可能性を有しているものと期待している。

研究代表者 (田口まゆみ) は上述のようにこの研究企画をそれまでの研究を発展継続させる形で立ち上げたので、本研究期間中初期の研究成果は研究前段階との関連が深い。前段階で取り組んでいた、キリストの生涯と受難を「黙想」するという信仰の様式がもたらした、あるいは象徴している、あるいは助長した、偽ボナヴェンチュラ作『キリストの生涯の黙想』が流布したことに象徴される文化の情緒的特性について、また、そのような内省的な信仰の形が流布したことが続く時代に起こった自我の形成・発展に貢献したと考えられている根拠について、研究成果をまとめていった。特にイギリスの事例について、ニコラス・ラヴの翻訳を研究対象として精査し、Pepys 版についての研究の背景的土台を固めていった。写本資料に依拠した研究を実践するという目的は多大な時間を要したが、学会発表を皮切りに徐々に成果を積み上げ、2014 年には 2 冊の図書 (分担執筆) が出版され、国際学術雑誌 (2015 年 9 月号) への論文掲載も決まるなど、研究期間内に研究を成熟させ、発表することができたと言える。

研究分担者 (家入葉子) は、『キリストの受難の黙想』における言語を、人称代名詞の

形態の変化、副詞の語尾の変化、動詞の人称語尾の変化、語順の変化など、個別に分析を行った。なおその際に、調査対象の言語を当時の英語の全般的な特徴の中に位置づける作業の一環として、当該のテキスト以外にも、関連のテキストの言語の分析を行った。たとえば、John Trevisa の『ポリクロニコン』は、『キリストの受難の黙想』と同様に翻訳テキストであり、また書かれた時代や地域が『キリストの受難の黙想』と近いと想定されることから、両者を比較することにより、『キリストの受難の黙想』の年代や方言の推定にあたって、手がかりとなる情報を与えてくれた。以下の「主な発表論文等」には、これらの一連の研究成果が含まれているが、研究成果の集大成は、最終成果である校訂本の序論のうちの言語についての章であり、その執筆は完了している。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

Mayumi Taguchi, “A Hitherto Unidentified Middle English Translation of ‘Les Quatre Requetes de Notre-Dame à Jésus’”, *Notes & Queries*, 査読有、62 巻 9 月号、2015

Mayumi Taguchi, “Mirroring Christ as a Meme”, *Postmedieval: A Journal of Medieval Cultural Studies*, 査読有、3 巻 3 号、2012、315–27

[学会発表] (計 5 件)

家入葉子, 「Algate(s) と alway(s)——中英語テキストを中心に」, 日本英文学会関西支部第 9 回大会、2014 年 12 月 21 日、立命館大学衣笠キャンパス (京都府・京都市)

Mayumi Taguchi, “Some Characteristics of Middle English Translations of the Ps-Bonaventuran *Meditationes Vitae Christi*”, Leeds International Medieval Congress, 2014 年 7 月 9 日、Leeds (UK)

Mayumi Taguchi, “The Use of Authorities in Late Medieval Translations of Biblical Stories”, *The Medieval Translator*, 2013 年 7 月 11 日、Leuven (Belgium)

田口まゆみ, 「イザベル妃にささげられた『聖母の 4 つの願い』英語版について (MSS Pepys Library 2125 and CUL, Ff.vi.33)」, 日本中世英語英文学会第 28 回大会、2012 年 12 月 1 日、広島大学 (広

鳥県・東広島市)

Yoko Iyeiri, “The Pronoun *it* and the Dating of Middle English Texts”, The 4th International Conference of the Society of Historical English Language and Linguistics (SHELL 2012), 2012年9月1日、慶應義塾大学三田キャンパス(東京都・港区)

〔図書〕(計 5件)

Mayumi Taguchi, “The Pepysian Meditation on Christ’s Passion”, in *Devotional Culture in Late Medieval England and Europe: Diverse Imaginations of Christ’s Life*, ed. by Stephen Kelly and Ryan Perry (Turnhout: Brepols, 2014), pp. 487–509

Mayumi Taguchi, “The Choice and Arrangement of Texts in Cambridge, Magdalene College, MS Pepys 2125: A Tentative Narrative about its Material History”, in *Middle English Texts in Transition: A Festschrift Dedicated to Toshiyuki Takamiya on his 70th Birthday*, ed. by Simon Horobin and Linne R. Mooney (Woodbridge: York Medieval Press, 2014), pp. 177–98

Mayumi Taguchi, “Devotional Terms and the Use of the Bible in Nicholas Love’s *Mirror of the Blessed Life of Jesus Christ*”, in *The Use and Development of Middle English: Proceedings of the Sixth International Conference on Middle English, Cambridge 2008*, ed. by Richard Dance and Laura Wright, *Studies in English Medieval Language and Literature* 38 (Frankfurt am Main: Peter Lang, 2013), pp. 243–60

Yoko Iyeiri, “Scribal Behaviours in the Middle English Translation of the *Meditationes Vitae Christi* in MS Pepys 2125”, in *Fifteenth-Century English: From Grammar to Text*, ed. by Akinobu Tani and Hisao Osaki (Suita: Osaka Books, 2013), pp. 141–54

Yoko Iyeiri, “The Pronoun *it* and the Dating of Middle English Texts”, in *Phases of the History of English: Selection of Papers Read at SHELL 2012*, ed. by Michio Hosaka, Michiko Ogura, Hironori Suzuki, and Akinobu Tani (Frankfurt am Main: Peter Lang, 2013), pp. 339–50

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

田口 まゆみ (TAGUCHI, Mayumi)  
大阪産業大学・人間環境学部・教授  
研究者番号：30216832

(2)研究分担者

家入 葉子 (IYEIRI, Yoko)  
京都大学・文学研究科・教授  
研究者番号：20264830